



AU 通信

「戦争は心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」

8月15日「平和の鐘を鳴らそう」行事実施

65回目の終戦記念日となる8月15日、芦屋市民センター正面玄関横の「優愛の鐘」広場に山中市長を始め、会員及びその家族を中心に市民約80名（内児童、生徒、学生8名）が集い、～平和の祈りと願い～を込めた行事を実施しました。廣瀬会長、山中市長の挨拶のあと、ユネスコの平和宣言を一同声高らかに唱和し、正午のサイレンとともに黙祷のあと、一人ずつそれぞれの思いを込めて「優愛の鐘」を高らかに打ち鳴らし平和の誓いを新たにしました。

この後、市民センター203室へ会場を移し、広瀬会長から冒頭で学徒動員や大阪大空襲の時の体験談などが語られ、会員に用意して貰った戦時食の「ふかし芋とおにぎり」を食しながら、参加者から次々と戦中、戦後の回顧談や今、思うことなどが語られ、悲惨な戦争を決して忘れずその当時の教訓を生かして平和を築いていくことの大切さをお互いに確認し合いました。戦争を全く知らない若い青年部代表からは、戦争の悲惨さをしっかりと受け止めこれを語り継いで、戦争を絶対に起こさない平和な世界を構築する役目をしっかりと果たして行きたいと所信を力強く語ってくれました。

ユネスコは「平和の志」を掲げ、二度と戦争を起こしてはならない！世界の平和と人類の福祉に貢献することが活動の原点です。この心をつなげてゆくためにも、芦屋ユネスコ協会の「平和の鐘を鳴らそう」行事は、毎年継続して実施されており市民のみなさんの理解と協力を得て定着して参りましたことは嬉しい限りです。今年もこの～平和の祈りと願い～を込めた行事が多彩な内容で有意義に実施できましたことをご報告申し上げるとともに、参加のみなさんと、お手伝いに汗を流して頂いた会員の皆さんに厚くお礼を申し上げます。



芦屋ユネスコ協会では毎年実施されている「平和の鐘を鳴らそう」行事は、各報道機関も関心を示しこれを取り上げてくれており、今年もその記事が各紙に掲載され一部を添付させていただきます。

音の鐘を祈る平和

80人が黙とう 芦屋市民センターで催し



平和への祈りを込めて鐘を鳴らす参加者

＝芦屋市業平町の市民センターで

「優愛の鐘」突き 市民ら平和語る

芦屋市民センター

65回目の終戦記念日となった15日、芦屋市業平町の市民センターで、市民ら約50人が敷地内にある「優愛の鐘」を鳴らした。

芦屋ユネスコ協会が戦争の記憶を次世代に語り継ごうと2001年から始めた。終戦の前日に大阪空襲を経験し

た広瀬忠子会長(83)が「天災と違い、戦争は避けることができる。絶対に後世に残してはならない」とあいさつ。参加者は正午のサイレンを合図に1分間黙禱し、一人ずつ並んで鐘を突いたあと、当時を思っておにぎりとおかし芋を食べながら戦時体験や平和への思いを語り合った。

前に亡くなり、戦争を知る人が少なくなっている。子どもたちに伝えていく機会をつくっていかないといけないと思った」と話していた。

1(同市業立町)で開かれ、市内外から約50人が参加した。正午に黙とうした後、1人ずつ同センターの庭にある「優愛の鐘」を打ち鳴らした。当時をしのび、おにぎりやおかし芋を食べながら、戦争体験や平和についての思いも語り合った。同協会の広瀬忠子会長(83)は、学徒動員された工場で戦闘機を造った経験や、大阪城近くの防空壕で空襲を逃れた恐怖などを紹介。「私たちがのような生き残りが、戦争の悲惨さやみじめさを伝えなければ、平和は守れない」と力を込めた。



優愛の鐘を鳴らす参加者＝芦屋市業平町

空襲体験など語り合う

65回目の終戦記念日となった15日、芦屋市業平町の市民センターで、市民団体「芦屋ユネスコ協会」が、平和を祈り戦争体験を語る面玄関の前庭で鐘を鳴らした。約80人が正午に黙とうし、正面玄関の前庭で鐘を鳴らした。空襲体験などを語り合った。

会長の広瀬忠子さん(83)は、終戦の日に住んでいた大阪から電車の駅に着いた時に終戦の知らせを玉音放送が聞こえてきて「これで空襲に遭わずにすむ」とほっとしたという。神戸市の男性(79)は学校へ行く途中、市内の空襲で炭のようになっ

て亡くなった人がたくさんいたと振り返り、「帰るも目にするのかと思うと、勉強に身が入らなかった」と語った。

2年の池田佳奈美さん(8)は「戦争はたくさんの方が亡くなって悲しい。しない方がいい」と話した。同協会青年部副会長の菅原聖さん(23)は「暴力は虐待やいじめの形で身近にある。戦争や暴力をなくすために、ここで聞いた話を同じ若者に伝えたい」と語った。

【衛藤達生】



ふかし芋やおにぎりで当時をしのび、体験を語り合う参加者ら＝芦屋市

第31回 阪神間ユネスコ協会連絡会 合同事業 開催

本年の合同事業は、芦屋ユネスコ協会が担当し、8月7日（土）14時～17時まで芦屋のラポルテ・ホールで「講演会&演奏会」が150人の参加を得て盛大に開催されました。



第一部の講演会は、外務省特命全権大使（関西大使）田邊隆一様に「私の海外経験と日本の役割」と題し日本から見た世界、ヨーロッパから見た世界についての所見をはじめ、駐在されたインドネシア・中近東・ユーゴスラビア・アフガニスタン・ポーランドなど大使としての海外の豊富なご経験から多くの事例を踏まえて日本と日本人の役割についてお話を頂いた。



第二部の「ヘルマンハープ演奏会」は、ヘルマンハープ演奏家・日本ヘルマンハープ協会理事長の梶原千沙都様とスペシャルオリンピックス日本・兵庫 アスリートメンバーによる演奏会を行った。ドイツでダウン症の子供のために開発されたバリアフリー楽器・ヘルマンハープの、生い立ちその特徴や日本における普及活動など解説と、独奏を頂きながら、梶原千沙都様の指導している知的障がい者グループ・アンサンブルアスリートの演奏を披露して貰い感動を持って聞かせて頂いた。

終了後、主催者である阪神ユネスコ協会連絡会（尼崎・伊丹・川西・神戸・三田・宝塚・西宮・芦屋の8ユネスコ協会）から、障がい者サポート団体のスペシャルオリンピックス日本・兵庫に対して活動の協賛金を寄付させて貰った。

一連の行事の後、各協会からの参加者による懇親会を行いコーヒーと茶菓子で親しく懇談交流が行われた。

この合同事業も31回を数え、今回は芦屋ユネスコ協会が担当し、役員、会員の全面的な協力で成功裡に開催できましたことに感謝とお礼を申し上げます。

年末講演会&親睦会のご案内

早いもので今年もいよいよ年末が近づいて参りました。皆様には如何がお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。

今年度も恒例の芦屋ユネスコ協会の「年末講演会&親睦会」を下記要領にて開催いたします。どうぞ奮ってご参加下さいますよう ご案内申し上げます。

記

日時：**2010年12月21日(火) 18:00~20:30(受付:17:30~)**

◎今からご予約をお願いします。

場所：**ホテル竹園 3階**

内容：講演会・・・外務省特命全権大使（関西担当）

食事会・・・フリードリンク

ビンゴ・・・景品多数

エンターテインメント・・・乞うご期待

会費：6,000円（学生3,000円）—ビンゴ券1枚付：当日受付にて

会員はもとより非会員のご家族やご親戚、ご友人、お知り合いの方など多数お誘い合わせの上 お申込み下さい。

出欠届：往復ハガキをお出ししますので出席・欠席にかかわらず必ず返信して下さい。お問い合わせ等は下記までお願いします。

事務局 本荘 恵美 電話・FAX (0797) 32-7910

締切日：2010年11月30日(火) ※締切日厳守下さい。

(早めに返事をして頂きますようお願い致します。)

お願い①ビンゴの景品提供にご協力をお願い致します。家に眠っているもの(新しいもの)をお持ち下さい。当日受付にてお手渡しくだされれば助かります。よろしく。

②書き損じハガキがありましたらご持参下さい。

全国大会参加報告 第66回日本ユネスコ運動全国大会が平城遷都1300年を迎える奈良の地で、開催地ならではのテーマ「和をもって貴しとなす」～日本の伝統と文化を未来へ～を掲げて、9月25日(土)～26日(日)に全国のユネスコ協会の会員の参加のもと盛大に開催された。古都奈良の地で先人の平和に対する思いを謙虚に学び、そうした素晴らしい日本の伝統や文化を受け継ぎつつ、希望ある社会を切り拓くユネスコ活動の未来について考える良い機会となった。芦屋ユネスコ協会からは、森・塩井副会長、山田事務局長、塩井事務局次長、永井・徳矢常任理事が代表して参加した。

ご寄付の御礼 この度、芦屋ユネスコ協会に下記の皆様から貴重なご寄付を頂戴しました。

・N・G・Fプロティーチングゴルフ協会 会長 山下義房様 (10万円)

・櫻井 明様 ・村岡民子様 ・小尾啓子様 ・北 廣美様

ご寄付を今後のユネスコ活動に有効に活用させて頂きます。有難うございました。厚く御礼申し上げます。

編集後記

異常に暑い夏も過ぎました。今年も残すところあと1カ月・・・早いものですね。夏場の体調はいかがでしたか？朝夕急に気温が変わるようですので 気をつけませんか。早くも年末恒例の親睦会のお知らせです。皆様の楽しそうな顔が目に浮かびます。お友達を御誘いの上皆様のご参加を楽しみにしております。

本荘 美恵